チーム一丸、8回に大量6得点

第98回 全国高校野球 選手権 山口大会 決勝

▶決勝

宇部鴻城	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1		2
高川学園	0	0	1	0	1	0	0	6	×					8

【評】高川学園は三回、主将の3番稲田の適時打で先制。主戦山野は続く四回、5番嶋谷に2点適時打を浴び逆転を許すが、以降は強打を誇る宇部鴻城打線を無得点に抑え込んだ。同点で迎えた八回1死一、二塁で山野が走者一掃の適時三塁打を放ち、均衡を破った。宇部鴻城は7安打無失策と終盤まで接戦を演じたが、八回に投手陣の制球が乱れて一挙6失点い、甲子園を目前に力尽きた。

第98回全国高校野球選手権山口大会（高野連など主催）は28日、山口市の西京スタジアムで決勝があり、高川学園が宇部鴻城を8－2で破り、初めての夏の甲子園出場を決めた。（1面に関係記事）

8回、均衡を破る2点三塁打を放つ高川学園の山野。捕手正木＝西京スタジアム

終盤までもつれた一戦は八回に高川学園打線が爆発。打者12人を送り込む猛攻で一挙6点を挙げて試合を決定付けた。夏の甲子園大会は8月7日開幕。高川学園の初戦の相手は同4日の組み合わせ抽選会で決まる。

【宇部鴻城】

打	安	点	振	球
5	2	0	0	0
4	0	0	0	0
3	0	0	0	0
3	0	0	0	0
3	0	0	0	0
0	0	0	0	0
4	0	0	0	0
2	0	0	0	0
1	0	0	0	0
1	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	0	0	0	0
0	0	0	0	0
32	7	2	10	2

【高川学園】

打	安	点	振	球
3	2	0	0	1
4	1	1	1	0
4	1	0	0	1
3	0	0	2	2
5	2	1	0	0
3	2	0	1	1
4	0	0	0	2
2	0	0	1	0
2	0	0	1	1
0	0	0	0	0
31	11	8	4	8

	盗	犠	投手	責
宇部鴻城	0	4	山本、丸山、安田、中村、中尾、中村、矢田、三浦	7
高川学園	2	1	山野	2

▽三塁打　山野、矢江、▽二塁打　山野、稲田、▽三塁打　嶋崎

主戦山野、投打で活躍

最後までマウンドに立ち続けた高川学園の主戦山野。投げては9失点完投。打っては三塁打2本、2打点の活躍で、チームの初優勝に大きく貢献した。

リベンジの場だった。宇部鴻城とは昨年夏の準々決勝で対戦。先発した山野は最後まで投げ抜いたが、13安打を浴びて8点を失った。八回コールドで敗戦。「去年の借りは返す」と覚悟を持ってマウンドに登った。

高川学園は三回に相田の適時打で先制したものの、四回に逆転を許した。「辛抱しろ、チャンスは絶対にくる」。山野は藤村監督の言葉を信じて腕を振り続けた。

味方は五回に試合を振り出しに戻したが、「疲れているように見えた」と捕手の山崎。山野は毎回のように走者を背負った。その度に帽子を取り、つばに書かれた言葉を確認した。「俺ならできる！絶対負けん！」。メンバーを外れた3年生に書いてもらった力強い文字を見ると、「気持ちが強くなった」。

三回以降、三者凡退に抑えた回は一度もなかったが、「持っている力全てを出して腕を振った」と気迫の投球。八回の大量6得点につなげた。この回は自らも2本目の三塁打を放つなど、勝利を手繰り寄せた。

最終回の投球、最後の1球は直球。左飛に打ち取ると、両手を挙げて喜びを爆発させた。

チーム全員で勝ち取った甲子園への切符。「日本一になるという目標に向かって全ての力を出し切りたい」。県大会に同様、聖地でも強い気持ちで挑む。（平岩）

全員で日本一を

高川学園・藤村竜二監督

「生徒たちには試合前『歴史を変える挑戦者として頑張ってほしい』と伝えた。山野は連投にもかかわらず、崩れずに辛抱してよく投げた。（夏の）甲子園は初出場なので、未知の世界。部員全員で日本一を目指して頑張りたい」

狙い通りできた

宇部鴻城・尾崎公彦監督

「選手たちが最後までよくやってくれて、狙い通りのゲームができた。私の力不足で悔しい思いをさせてしまって申し訳ない。高川学園は山野投手が根気よく投げていて特に制球がよかった。打撃力もあってまとまったいいチームなので、全国でも活躍してほしい」

宇部鴻城3年生 犠打で好機演出

4年ぶりに夏の県大会決勝に進出した宇部鴻城。2回目の優勝には手が届かなかったが、頂点を争う舞台でも中軸の3年生が要所で犠打を決めて好機を広げるなどこれまで培ってきた普段通りの野球を貫いた。

相手に1点を先行された直後の四回には左前打で出た1番丸山優、野選で出た2番安達を3番中村勝が犠打で進塁させ、5番嶋谷の2点適時打につなげた。同点で迎えた八回は得点に結び付かなかったものの、振り逃げで出塁した中村勝を4番上田が送り、1点への執念を見せた。

昨秋から4番を務めてきた上田は「監督を山口県一の男にできなかったことが悔しいが、結果をしっかり受け止めてこれからに生かしていきたい」と語った。

主将の中村勝は試合後、スタンドから声援を送ってくれた生徒や保護者の前に立って「熱い応援のおかげでここまで来ることができた。1、2年生は自分たちの分まで勝って甲子園で校歌を歌ってくれるはず」と声を張り上げた。（常井）

4回表、犠打を決め、一塁へ走り出す宇部鴻城の中村勝＝西京スタジアム

捕手正木が4投手リード

宇部鴻城は、背番号12の2年生捕手正木が初戦の2回戦から決勝までの5試合でいずれも先発のマスクをかぶった。先輩の支えを力にして決勝でも4人の投手をリードし、体を張った守備で相手の得点を阻んだ。

3年生の辻村、2年生の早稲田、百留、木下とタイプの異なる各投手が伸びと投球できるように配球を考え、積極的に声を掛けた。二回には本塁に突入してきた三塁走者の生還を阻止し、五回には無人になっていた三塁に頭から滑り込むようにしてカバーに入るなど守備でも投手陣を助けた。

3年生で背番号2を付けた丸山颯が後輩捕手をサポート。ベンチで「お前が硬くなったら駄目だ。自分のプレーをしよう」などと助言を与え続けた。「先輩がいてくれたからいつも通りにプレーできた」と正木。先輩たちと戦うことのできる夏を終えて「3年生と一緒にもっと野球がしたかった。これから自分たちにできることは次の春、夏に甲子園に行くことしかないので、次こそは勝って恩返しがしたい」と悔しさをこらえて前を向いた。（常井）

2回、高川学園の三走山野の生還を阻んだ宇部鴻城の捕手正木＝西京スタジアム